

第6回滑川市まちづくり共創会議開催結果

開催日時 令和5年2月6日（月） 17:00～19:00
会 場 滑川市役所3階大会議室
出席者 委員14名、藤野英人特別アドバイザー、
市長、副市長、総務部長、事務局（企画政策課）

	委 員	備 考
1	星名 照彦	座長
2	廣瀬 淳	副座長
3	福井 信英	
4	清水 義彦	
5	土肥 薫	
6	石田 拓人	
7	深井 あゆみ	
8	樋口 幸男	
9	桶川 高明	
10	砂子 典章	
11	金川 奈那美	
12	浦田 結那	欠席
13	長瀬 めぐみ	
14	由井 千尋	
15	山内 大河	

議 事 ①中間報告について
②滑川市の将来ビジョン（目指すべき姿）について

上記2件について、包括的に自由に意見を交わしていただいた。内容については別紙のとおり。

【議 事】 中間報告及び滑川市の将来ビジョン（目指すべき姿）について

座長

それでは第6回の協議を始めたい。

今回は「中間報告（たたき台）」に記載されている内容について、更に発展させたいものや、追加したい内容などがあれば、皆さんのご意見をお伺いしたいということであるが、まずこのたたき台の内容に関して、市から説明していただきたい。

柿沢副市長

「滑川市まちづくり共創会議中間報告（たたき台）」について、簡潔にどのようにして作成したかというところを説明したい。

まず、2頁目は目次になっているが、「Ⅰ 滑川市の将来ビジョン」、「Ⅱ 取り組むべき政策」の1、2、3、4、5。これは毎回テーマを決めて開催させていただいた共創会議において委員の皆様からいただいたご意見等を、目次を書いてある5つのテーマで、できるだけ委員の意見を広く取り入れる形で整理したものである。

まず「はじめに」という頁で、滑川市まちづくり共創会議の設置の趣旨を説明している。

「VUCA（ブーカ）の時代」、そして「常に変化し続ける現場の実情ニーズは行政だけでは難しい」ということで、「市役所は市民・企業と開かれた対話を行いながら状況変化に応じ、最適な対応を検討し、実行していくことが必要」ということである。

4頁目は、滑川市の将来ビジョン。これは前回の会議で、委員の皆様からビジョンについていただいたご意見を集約したものと、4つの候補を書いている。例えば「夢が叶うまち」、「子どもたちが誇れるふるさと滑川」などである。これについては、また議論していきたいと思っている。

6頁目からは「取り組むべき政策」。5つの章に分けており、この各章ごとに目指すべき姿や政策の方向性において、委員の皆様からいただいたご意見を整理して記載させていただいた。

最後から2頁目をご覧いただきたい。「今後の取り組み」というところであるが、この中間報告を整理した後、次はどうしていくのかということである。この中間報告は、新しい滑川市の今後の大きな方向性を書いてあるもので、これを具体的な事業プロジェクトとするためには、事業レベルでどうしていくのかという検討が必要になってくる。例えばの提案であるが、一つの政策ごとにワーキンググループを設置しながら、予算に反映するための具体的な事業の企画に繋げていく方法や、市民の皆さんにこの中間報告を説明し、色々なアイデアを出してもらう機会としてワークショップなどを実施し、更に意見の幅を広げていく方法もあると思っている。

今年度はこの中間報告までとしたいと思っているが、来年度、引き続きこのまちづくり共創会議を続けながら、中間報告について更に検討を進めていきたいと考えている。また、その際には総合計画の中にも、当然入れていくということを思っている。

こうした今後の取り組みも含めて、色々なご意見をいただきたい。

座長

今の副市長のご説明を踏まえて、皆さんからのご意見をお伺いしたいと思っているが、その前に、前回会議の内容に関係して、委員から情報提供をいただいた内容があるので、よろしければご説明をいただきたい。

委員

前回の会議の翌日の朝日新聞に、他自治体でのゼロ円空き家バンクの取り組みが掲載されていた。前回の会議では「場所の提供を」というような委員からのお話もあったので、事務局へ情報共有として、該当の記事が載っているページを案内した。

座長

他の自治体で実際にされていることを参考として教えていただいた訳だが、こういうことも踏まえて、中間報告のたたき台に関して、この他にご意見や追加したい内容等があればお聞かせ願いたい。

委員

多分この後の会議が若干話し難い空気になるような気がするので、非常に言おうかどうか迷ったのだが、言っておかないと駄目なのかなと思ったので、資料を画面でお見せしながら話をさせていただきたい。

まとめの資料を拝見して思ったのが、僕のいつもやっている仕事のやり方を見ていくと、ちょっこの先どうなるのかなと思ったので、その視点からの話をしたい。あくまで僕ひとりの意見なので、あまり気にされずに、それはそれという感じで進めていただけたらよいと思う。

このまま中間報告で、ビジョンでこういう方向がよいという話になって、多分この後、県のビジョンセッションに準えると分科会みたいなものをして、今度はどんどん事業を進めていくことになって、最後まで行った時に「何をしていたんだろう？」ということになるんじゃないかという気がする。

それは何故かと言うと、この資料を拝見して思った疑問点が2つある。

まず1つ目。前回の会議で皆さんがいっぱい出されていたことが「将来ビジョン（たたき台）」にいろいろと書いてあって、その下に「最終的にこの取り組みを進めることで、強く優しく輝く滑川を実現したい」と書いてあったら、それがビジョンなんじゃないかという気が凄くしている。

今までいろいろなアイディアを市民から募集し、でも最終的には、「強く優しく輝く滑川」にするとすると、言い方が悪いけど結局はお上というような印象を受けるのではないか。

どちらかと言うと、行政は行政で「強く優しく輝く滑川」を目指し、他の方は他の方で、自分のビジョンをそれぞれ持っている。市民と行政が協働していこうというのであれば、まずお互いが対等にならないといけないのではないか。対等というのは、市民のビジョンを市役所が吸収して全部網羅するのではなく、お互いがそれぞれのビジョンを尊重し合って、重なる部分で共用していこうということじゃなく個人的には思う。だから、今のこの形で進めていくと、結局、行政のトップダウンになってしまって、協働という部分では弱いのではないか。

これまでの行政では、いろいろな要望を市民の人から集め、「善処していきます」とか「やってみましょう」みたいな感じになるが受動的で、その後、多方面に配慮した結果見送みたいなことも多々あった。

そうではなくて、行政がこの方向を目指していくというのは結構強い発信ができていないかと思うので、そのまま進めていただいて、行政は行政でもう腹を括って「この方向でいきます」と言い切ってもよいと思う。そういう能動性が出てきたらよいのではないか。

僕ら外注が色々な意見を求められて言っているが、そうではなく、職員が課題を発見して、

企画・調整・実行までできるような研修をしていく必要があるのではないかな。これは1年2年の話ではなく、今後長いスパンで見た時に、そういうことができていくと行政も自立できるというところがあるのではないかな。

もう一つ疑問に思ったのが、②のテーマでコピーという話があったが、コピーとビジョンとコンセプトの立ち位置をちょっと整理した方がよいのではないかな。ここが特に強く疑問を感じた部分である。

ビジョンは、市役所がそう思うのであれば「強く優しく輝く滑川」でよいと思う。ただ、その言葉自体がとても抽象的で、イメージがちょっと湧かない。だから、前回の会議で「皆さんのビジョンを教えてください。コピーも考えてください」ではなく、この「強く優しく輝く」という言葉を、具体的にしたらどうなるかという質問の仕方もあったのかなと思う。

そういったビジョンを周りに伝えていく時にコンセプト。このコンセプトというのが、組織内もしくは事業をしていく中で共有する方向性とか、ものさしになる。

コピーは外部の人向け。例えば市役所の事業のコピーは、市役所のスタッフではなく、市民もしくは市外に届ける言葉になってくる。外部との接点である。だから、そこは非常に繊細に決める必要があるのではないかなと思う。

これを言うと申し訳ないが、「強く優しく輝く滑川」というビジョンがあった時に、「すべらない街 滑川」というコピーがあるとすると、どう繋がるかという部分がちょっとぼやけていくのではないかな。

それと似たようなことで今回、みんなのいろいろなビジョンを集めていき、コピーも考えようというこの流れだと、全部が連動していかない。それぞれが単発で終わってしまう部分があるという気がしたので、そうすると、全部が終わった後に「何をしていたんだろう？」ということになってしまうんじゃないかな。

だから、コピーとビジョンとコンセプトというのは、3つが全部連動してかないといけない。そして、ビジョン→コンセプト→コピーの順番に作っていかないといけないもの。これはあくまで僕の仕事のやり方なので、違うやり方も勿論あると思う。

ビジョンは、まず批判されても折れないこと。皆から募集していたら、どうしても折れてしまうので、そこは自分の中から見つけていかざるを得ないと思う。

コンセプトは、組織内の方々やその現場など一緒に仕事をする人たちが納得できる判断基準があるかどうか。やること、やらないこと、それを計画から色彩とか、本当にもう細かい爪先まで、全部明瞭になっている。そこまでいってから次になる。

無関係な人たち、外部の人たち、滑川を「すべりかわ」と言っちゃうような全然知らない人たちが、滑川はこうなんだって思える磁力を持ったコピーを創っていけるか。ブランドイメージであったり、SNS発信であったり、外部の方との接点等を作っていくためには、属性であったり表現、そしてやはり伝えたいことが何なのかっていうのがはっきりと出た後の仕事にしていけないと、何となくこの後、「会議で皆の色々なアイデアがいっぱい出て楽しかったよね」みたいな感じでそのまま進んでいって、ぼやっとしていくんじゃないかなという気がしたので、その点だけお話をさせていただきたいと思った。

委員

私も最初にこの「強く優しく輝く滑川」を見た時に、「これは会議のどこかで出たっけ？」と感じた。「いろいろ話した結果がこれなの？」みたいな感じを受けた。

これを別にコピーにする訳じゃないにしても、これを見た時に伝わってくるものが何もない。もしこれをこんな感じの滑川にしたいのだと出してしまうと、この共創会議自体が何

を話してきたんだろうみたいなことになりかねないと凄く感じた。ある程度集約していかないと、皆の共感と言ったら変だが、何か意見を纏めていかないといけないのに、最終的にぼやっとしてしまうと感じた。それこそ子どもだったり、夢だったり、ここに皆で話してきたことが、まずそこの中に入ってこないという意味はないと思う。これではビジョンがどんどんぼやっとしてしまう。

その中で、私も「すべらない街」自体は凄く良いと思っている。そこに上手く結びつけられないかというのは何となく感じた。そこに何か集約していくことができ、そういう自虐的でも人から見たらぱっと目に入るの、そこから滑川はこんなことを目指しているのだというところに人の目がいってくれたらよいので、それにどうやって結びつけるかを考えていく必要があると思った。

座長

滑川市の将来のビジョンの方向性みたいなところと、共創会議のあり方というところまでいったような気がする。他にも何かこの件について、ご意見・ご提案をお願いしたい。

委員

僕自身も「強く優しく輝く滑川」がビジョンなんじゃないのと思ったので、先の問題提起はよいと思うが、別にそんなにネガティブな話でもないとは思っている。

ビジョンの訳し方はいろいろあると思うが、やはり「よりよい未来」だと思う。ビジョンと聞いた時に、こういう街になったらいいなというものが頭の中にふわっと思い浮かぶ。そういう状態じゃないと駄目かなと思っている。そういう意味では、富山県のコピーは結構良い。ウェルビーイングを目指しましょうという形で、経済的な成長とか人工的な発展とかではなくて、一人一人の幸せを目指しましょうということを言っているの、非常に分かりやすい。関係人口 1,000 万人と入れることについては、僕はどちらでもよいと思うが、何らかの形で目標も入れているので結構具体的。それでウェルビーイングに寄与する施策であればどんどん入れるから持って来いという話をしていると思うので、その善し悪しはともかくとして、富山県のビジョンは非常にビジョンとして適切という感覚がある。

「強く優しく輝く滑川」というのは、ビジョンではないと思う。ビジョンと言うには少し抽象的過ぎる。「強く」の中にもいろいろな意味合いがあるし、「優しく」という意味合いの中にはダイバーシティとかの感覚もあるだろうし「輝く」というところにはホタルイカのことや、何か尖った滑川ならではのものの意味合いもあるだろうし、それぞれに恐らく意味があって作られていると思うが、それを聞いたただとちょっとイメージしにくいというところはあると思う。僕らが議論してきたことというのは、全部その「強く」とか「優しく」とか「輝く」とかに集約されるようなものではないという気がする。僕らが議論してきたことは「強く優しく輝く」の、コンセプトとして集約されるような気がするから、別にそんなに間違っていないという感覚がある。

ただ、この滑川市の将来ビジョンとして4つ挙げてあるこれはビジョンではない。コピーに近いと思う。もう少し10年後の滑川がこんな街になっていたら良いねというものが具体的に見えて、そして富山県が経済的成長とか、福祉とか、子ども政策ではなくて、一人一人のウェルビーイングに舵を切ったように、大きな方向性として進みたいところを示してくれるようなものであればいいんじゃないかという気がしている。

だから、「強く優しく輝く滑川」は水野市長の信念であって、ビジョンではなく、そういう意味ではこのプロセスを通じて、最終的には総合計画の中にビジョンが示されてくるのかなと思った。

それから、このプロセス自体に僕は凄く意味があると思っている。市長が強く、上から下へというトップダウンのやり方は、非常に優れた短期間での劇的な変化を生み出すことができるが、同時に敵を作ったり、分断を招いたりして、問題も増やしてしまうので、この強烈なトップダウン型のリーダーシップというのが、あまり発揮しないようになってきている。では、何を大切にするのかと言うと、従業員一人一人から出てくるビジョンであったり、何のためにここで働いているのかという purpose を凄く大切にして、それを生かしながら大きな方向性を定めていくところがある。逆に一人一人の purpose を大事に過ぎると、全然上手くいかないとは思いますが、結局一人一人が何を実現したいのかという根底にある願いみたいなものが実現できそうな組織でないと、結局ビジョンを掲げたけれども誰かの犠牲の上に何かが達成されるみたいな感じになってもあまり上手くいかないような気がする。結局実現するのは、行政ではなくて市民なので、市民が何か自発的に動きたくなるような仕掛けみたいなものが生まれるとよいと思う。

委員

行政は公的機関という性質上、市民が動かないと動けないものだと思う。「強く優しく輝く滑川」という方向性を滑川が用意したのなら、それを上手く利用して、市民の方々がやりたいことをやればよいのではないかと。主役は市民ということ。

委員

凄く使命感に捕らわれて、決着と言うか方向の話をしていただいたが、元々、ビジョン策定委員会ではないので、主役は市民ということだけを意識していけば、もっといろいろな話が出てきて、その中から集約した形にいずれできればよいと思う。

この資料の字面だけを読むと、今1個だけに決めようみたいなことを強く感じてしまうが、今までいただいた意見の中にはまだ掘り下げるものも十分あると思うし、その中でいずれコピーなのか、コンセプトなのか、ぼやけたもののピントが段々と合ってくると思う。

だから、ここの話で終始していると、折角皆が沢山の意見を持っているのに勿体ないという気がする。もう少しボリュームが出た時点で、「これが良い」「ここは少し変えた方が良い」みたいなことで、当面の間使っていけるようなコピー等を協議していけたらよいのではないかと。

次年度のことはまだ分からないにせよ、何らかの形でこういった場というのは必要だと思う。

座長

実際に1回から5回まで、色々なご提言・ご意見をいただいている。その中から、また見えてくるビジョンというものがあると思っている。中間報告（たたき台）については、これまでの5回でいただいたご意見を纏めたものであるが、付け加えたいとか、また他の意見がある、そういうものを出していただきたいと思っているが、いかがか。

委員

文章のまとめ方について、市役所が中心となってやっていきたいことと、市民が中心となってやっていきたいこと、それから市民と市役所が一緒になってやっていきたいことというような分類もあってよいのかなと思った。

現状で、委員からの主な提案はいっぱい出てくるが、少し見難くなっている。市民の方にもこの書式でアップロードするのであれば、もう少し分かりやすいような形で纏められた

方がよいと思う。

委員

将来ビジョンのたたき台ということで4つ出ているが、これをそのまま見せるということか。それとも、これを絞り込んでいくということか。

ビジョンという呼び方は違うのではないかという話が、先ほど他の委員から出ていた。私自身もこれはキャッチコピーではないかと思っていた。ちょっとビジョンとしてはどうなんだろうというのもあり、今日はこれを絞り込んだりするという話になるのか聞きたい。

座長

たたき台ということで、現時点でこの中から選ぶということではないとのことである。

藤野特別アドバイザーから、今まで出てきた話の中で、もしご意見・ご提言があればお聞かせいただきたい。

藤野特別アドバイザー

「強く優しく輝く滑川」はとても良いビジョンだと思うが、恐らく「強く」とか「優しく」とか「輝く」というところに、凄く思いがあると思う。それが何かをちゃんと文章で書いた方がよい。「強く」だけでA4用紙1枚分くらいは書けるのではないか。「優しく」と「輝く」もそうだと思う。それは市長のものかもしれないが、「強く」とは何かいうのを深く考えて提示するということは、意味があると思う。あり方が大事であるので。

「滑川の人はどうありたいのか？」というようなところで見ると、強い人で優しい人で輝く人。それぞれ持っているのか、全部持っているのかは分からないが。

では、強い人というのはどういうことなのか。ただ喧嘩が強いのか、仕事ができるのか、それとも凄く生命力があるのか、レジリエンスみたいな折れないかというところか。「強く」は凄く重い言葉だし、場合によっては暴力とかも感じさせるものなので、この強さは何なんだろう。「優しく」という言葉が入っているので、多分、力だけではないと思うが。では、「優しく」はどういう感じなのか、「輝く」とはどういう感じかというイメージがはっきりあると、よりついて来やすいという感じがした。

あと、「すべらない街」はWebでも見たが、結構面白いと思う。これは僕は秀逸だと思っていて、似たような例だと、例えば広島県で「おいしい！広島県」というキャンペーンをやった。「おいしい！」と言いながら、凄く広島自慢をしている。本当は凄いいんだけど、何かが足りなくてまだ知られていないみたいなのところで、あれに凄く近いと思った。

滑川という字が「すべる」と読まれてしまうというところからきているのだが、その中で「すべらない」という言葉そのものの面白さとか、「すべらない」って何だろうみたいなのところがもっと出てくると良いと思う。すべらないというところに、もしかしたら「強く優しく輝く」があるのかもしれない。

「すべらない」というところがどういう状態なのかと言うと、「強く優しく輝く」状態がすべらないことなのかもしれないという風に思った。だから、「すべらない街」というところと、「強く優しく輝く」というところは包含できるのかなと考えている。

ここはビジネスでも大事で、最初に経営をする時に僕がいつも言っているのは、ビジョンやミッションのところをちゃんと話して、ビジョンとかミッションを半年とか1年とか考えて起業したり、起業した後もそれをちゃんとやれて、それが行動規範にちゃんと落ちている会社が凄く成功しやすい。これはグローバルにもそう。アメリカの会社も中国の会社もそうなので、ビジョンは凄く大事だと思う。

だから、「強く優しく輝く」というところはどういう状態なんだろうかということ、いろいろ議論したり、皆でグループワークをしたりしながら、滑川っぽくできるとよいと思った。

水野市長

「強く優しく輝く滑川」は私がちょうど1年前に市長選に立候補した時の、俗に言うコンセプトになるのか、キャッチコピーになるのか。これで1年経つが、30の政策と102の施策という形でこういう冊子を作って、これを皆さんにお配りした。

まずは「強く」だが、「産業を強くする」「まちを強くする」。この2つを挙げている。産業を強くするには、滑川市自体の地域循環を増やして稼ぐ力を強化したい。また、ふるさと納税を活性化させて稼ぐ力を強化したい。それで企業や新たな挑戦を支え、成長する産業へ、こういったことで産業を強くするというのが一つ。もう一つは、「まちを強くする」ということで、災害から身を守るためのハードやソフトの整備促進というものを挙げているし、消防団や防災士と連携して防災力を強化したい。また、人や地域を強い絆で繋げて、防災訓練等を含めた形で実施をしたい。

「優しく」は、皆に優しくということ、子育て世代の負担軽減、柔軟な子育て支援、後は高齢者に関しては健康で生き生きと暮らせる優しい社会というものを掲げた。障害者への理解、交流を深めた共生社会、そういった形も書かせていただいているし、もう一つは優しい市役所ということ、市の職員の能力を最大限に生かす。そういった組織づくりをしたい。後はスマホ等で簡単なオンライン申請の推進もしたい。情報発信・教育・市内のデジタル化を所管するデジタル推進チームを設置して、優しい市役所を作っていきたい。

「輝く」に関しては、「輝く教育」と「輝くまち」、この二つを大項目で挙げさせていただいている。「輝く教育」の中には土曜事業の見直しであったり、デジタル教育の推進であったり、地元で育み地元で生きる「地育地生」というものを推進していきたいということを教育関係で挙げている。後は町を輝かせる意味で、富山湾と漁港周辺の賑わいの拡大に向けた整備や観光のブランド化というものも挙げているし、中山間地の活性化、後はSDGs未来都市への実現みたいなことで、「強く優しく輝く滑川」ということで、6つの大項目に関して挙げている。

先ほどから言われている「すべらない街 滑川」は2月1日に公表した。公募したところ9業者から25枚くらいのポスターが出てきて、それを市の部課長の方で審査をし、最終的には私が決めた訳である。この「すべらない」というキャッチコピーに関しては、賛否の意見が職員の中でも出たが、私もSNSに載せたら批判的なコメントはなかなか来ない。

この「すべらない街 滑川」、これに関して今日もNHKニュースでやっていたが、受験生もすべらない。政治家にとってもすべらない街なら良い街ではないかみたいなコメントもいただいている。

この「すべらない」というキーワードでこれから掘り下げて、皆さんの色々な意見も聞きながら「強く優しく輝く滑川」、それぞれお互いに関連性を持たせた形で考えていければいいかなと私は思っている。

座長

市長が言ってしまうと、もうキャッチフレーズが決まっているのかなとかと思ってしまうが、そうではなく、これからまた皆でいろいろなアイディアを出しながらやっていきたいということである。

藤野特別アドバイザーと市長のご意見を踏まえた中で、何かご意見等ございましたらお聞

きしたい。

委員

私はこのポスターの存在も知らなかった。この「すべらない街 滑川」は、中間報告（たたき台）に挙がっている将来ビジョン、キャッチフレーズとの整合性はどうなっていくのか。「すべらない街」と今回の4つのたたき台は別物ではないということによいのか。

委員

市役所がどう考えているかは分からないが、外から見た視点では整合性はないのではないかなと思う。

委員

私も「すべらない街」が気に入っているが、あれが先に大きく出て今日なので。そうすると、今まで話してきたことをここに集約していくべきなのか、それとも全く別物として話していかないといけないのか、ちょっと難しいと感じた。

座長

共創会議とこのポスターとは全く関係ないということで、勝手に私の権限で言わせていただいてよろしいか。

委員

そうしないと、全く纏まらないと思う。

水野市長

PRポスターが滑川市にはなかった。どこに行っても、例えば国会議員のところに行っても事務所には各市町村のポスターが1枚ずつ貼ってある。滑川市だけ全くなかった。

また、関東方面に行ったら、滑川市は殆どまともに読んでくれる人がいない。やはり「すべりかわし」と言われるのが一番多いし、埼玉県人は滑川町があるので「なめがわし」。そういう形で読まれる。

滑川市を全国的にPRしていきたい。それでこのPRポスターを作ったと認識をしていただいて、このまちづくり共創会議とは完全に別物と言うか。

この「すべらない」というキーワードでも、また色々な形で皆さんからもアイデアをいただいて、「強く優しく輝く滑川」にリンクできるところはリンクしていきながら、考えてもいきたいとは思っているが、本当にこれに拘らずにいろいろな意見を出していただければというのが、私の思いである。

委員

整合性という言葉もあったが、相反するものに拘ってはどうか。「強く優しく輝く滑川」と「すべらない街 滑川市」をどうやってくっつけるか。

例えば、商売が成功してすべらない。それは、まちが強いからというような観点で話を進めていくと、もっと話を膨らむような気がする。皆と協議しながら、対外的に出したもので、すべらない理由の中にこの3つのワードと繋がるようなこともあると思うので、別物でなくても良いと思う。「強くてすべらない」や、「優しくてすべらない」、「すべらないで輝く」。何とでもあると思う。

このたたき台が対外的に出て、そこから何らかのヒントを得て、起業される方などがあれば、素晴らしい話である。

だから、そういう一つの方角を向くようなビジョンなり、コピーであって欲しいし、それもその一つだというような感覚で私は思いたい。

座長

「すべらない街」ということをビジョンというかキャッチコピーにして、逆にそちらで進めた方がよいという意見もいただいた。個人的に言うと、その方が話しやすいということはあるような気がする。

これについては色々な意見があると思うので、他の委員はいかがか。

委員

私も今、言われたことに近い意見を持っている。

「すべらない街」は凄くインパクトがある。

市長の話聞いて、滑川市の認知度アップってところが、一つのキーワードなんだろうなと思った。名前を売ることも大事だが、これに絡めた市の施策で認知度アップということも絡めていって、施策を走らせていく方向性が出るといいのかなと思う。

委員

私は今まで話したビジョンと、認知度を上げることに限っては、分けて考えた方がよいのではないかと、今聞いていて思った。最初のビジョンは滑川市民がどういうまちを作っていきたいとか、市政とかそういう話だったと思うが、認知度を上げるとなると観光とか外部の人にとってどういう見せ方をするかという話になってくると思うからである。もちろん一つになっているに越したことはないが、「すべらない街」だけだと、「何が？」という感じになってしまう。

例えば私は前回、「日本一寿司が美味しいまち」にしたらどうかという話をした。そういうキャッチコピーの方が観光客としては認知度アップにはなる。でも逆に市政とはちょっと関係ない話になってきてしまうので、そこは分けた方がよいのではないかと考えた。

藤野特別アドバイザー

富山県成長戦略会議では富山県全体で寿司推しをやろうとしている。どういうフレーズになるかはまだ分からないが。

富山県に来てもらう時に何でいくかを考えた時に、寿司を出した方がよいということになって、準備中であるが「富山県＝寿司」というキャンペーンをこれからする。だから、それに乗っかっていくというやり方もあるが、埋没するリスクもあるかもしれない。一応、情報共有しておく。

委員

私は昨日まで長崎に旅行に行っていた。長崎県は凄く富山県と似ている。例えば立山黒部アルペンルートみたいに、ケーブルカーがある。しかも 333 メートルの山までいく。これは滑川市のマイナス 333 メートルの海洋深層水に似ている。

長崎は「長崎は日本一刺身が美味しいまち」というポスターを駅にたくさん貼っていた。刺身に関しては長崎が先に言ってしまうということが分かった。しかも、長崎は海のゆりかごと言われているというのも、富山湾は天然の生簀と言われているのと似ている。

だから、「他の町ではこういう体験はできません」と書いてあっても、「富山でもできる」と思ったが、言った者勝ちである。富山も何かこういうビッグマウスで話をしてもよいのではないかと思った。

また、認知度を上げるという意味では、長崎は中華街があるので、ちょうど今、旧正月でランタン祭りをやっているが、中華街だけではなく至るところにランタンが置いてあって、観光客としてはどこに行っても楽しいので、中華街以外のところも結構回った。滑川市の認知度を上げるのであれば、瀬羽町だけで何かをするのではなく、滑川市全体で統一感を持ったことをやったらよいのではないかと、回っていて思った。

委員

乗っかりやすいというのは大事だと思った。「すべらない街 滑川」にするかどうかは置いておいて、人かふざけたように乗っかることができるようなコンセプトやビジョンは、市民にも波及もしやすいと思った。

前に藤野特別アドバイザーが話された、妖怪の町がギャグみたいなところから始まったものに皆が乗かって、ブランディングしていったという話があった。寿司が一番美味しいまちでもすべらないでもよいが、人がすべらないのであれば神社とか。逆にすべるものをちょっと作ってみようとか。寿司であれば米のブランディングを考えてみようとか。何か発想が広がるワードが入っていると良い。

市長の「強く優しく輝く滑川」は少し抽象度が高すぎる。それだと人はなかなか発想が浮かばないので、抽象度をちょっと下げて、人の発想が広がるような言葉を並べていただけると、行政は行政で進みながら、住民は住民で面白く勝手にやっていくみたいな流れはできるのではないかと思った。

人がふざけられるような、柔軟性のあるワードがよいと感じた。

藤野特別アドバイザー

大分県臼杵市に素晴らしい石仏があるのだが、この石仏が暫く朽ちていて、それで石仏の頭が落ちていた。それを20年くらい前に当時の臼杵市長がその首をくつつけた。色々反対もあったが、首をくつつけたら何が起きたかって言うと、あの当時リストラが結構あった時で、首が繋がる、リストラ封じということで物凄く人が来て大ブームになった。だから、すべらない街って言うのも、何か落ちないとか、合格するっていうところでも使えるなと思った。滑川神社とかあるので、すべらない神社みたいなところで、こうやるとか何かもう、すべらないっていうところを、何かどれだけ悪乗りできるかというのは、凄く大事なかなと思う。ただこれは行政が出したもののなので、それにどれだけ共感できるのかというのは分からないが、商売人として上手く悪乗りしちゃうっていうのもあるのかなと思った。

座長

本日聞きたい項目の1番と2番が一緒になって話が進んでいるので、あわせて話を進めていってもよいのではと思う。いろいろな意見を出していただければ。ご提言も含めて、いかがか。

委員

すべらないに関連して、パワースポットの的な感じなのだが、北野天満宮に合格祈願でよく受験生が訪れる。お賽銭を出したら絵馬が書けるっていうのがちょっとアトラクション的

に面白いのではないかなと思う。

委員

さっきから「すべらない街」って話は、面白い。全国の「滑る」という漢字を使っている市町村を調べると、滑川市と愛知県常滑市ってところしかないみたい。「すべらない街」というのを押していくのは凄く言葉としては面白いかなと思うが、すべるっていう認識の抽象度が高い。実際に受験で「すべる」「すべらない」っていうのは具体性が高く、強いとか優しいとかではなくて、具体的にすべらないのを全面的に押し出していく方がキャッチーだし、面白さが高いかなと思う。

委員

毎年、正月の年越し後に神社に行って太鼓を叩くのだが、合格祈願の生徒が太鼓を叩いて、自分で合格祈願ができるのなら記憶にも残るので、自分の子どもたちにもと伝承みたいなものに繋がるのではないかな。

委員

「すべらない街」を本格的にやる前段階で、これから丁度受験シーズンなので、滑川の海洋深層水の塩を使った「すべらない街」の清めの塩はどうか。余っている大粒の海洋深層水の塩、天日干しの塩を小分けにして、滑川駅で受験生に配るというのを、やってみてはどうだろうか。テレビとか来そうだなと思う。

委員

滑川駅にキラリンとかピッカの銅像を置いたらどうか。

委員

石川県の能登町だったか、イカキングっていう凄く大きなイカのモニュメントがあって、その滑り台がなかなか滑らないみたい。逆にそういう感じの大きいインパクトのあるものを置いて、逆に滑れるようにしたらよいのではないかな。

座長

具体的なご提案も必要なことだと思う。全くの白紙に戻してご意見をいただいても構わない。いろいろなご意見をいただく、これがまちづくりの共創会議のあるべき姿でもあると思うので、お願いしたい。

委員

私も「すべらない街 滑川」っていうフレーズは良いなと思っている。キャッチコピーにユーモアがある。その割にポスターが真面目過ぎるのが凄い気になっていた。もっとポスターごと遊んだらいいなと思っていて、これからそれを打ち出していくのだったら、将来的に、松本人志さんがポスターに起用されることかなと思った。そしたら結構面白いかなと思う。「すべらない街 滑川」っていうのを打ち出すことで、結構表現の幅が広がっていくので、私はその方向性に凄く賛成。

話は戻るが、水野市長が言っていた「強く優しく輝く」の部分は、どこかに載っているのか？あらためて見たいなと思ったのだけど、どこに載っているか。

水野市長

1 年前に私が選挙に出る時の冊子の中に書いてある。

委員

インターネットで見られるか。ネットじゃなくても、議事録で後日共有していただく時に、そのページの PDF を送ってほしい。

水野市長

私のホームページには、PDF のダウンロードもできるようになっている。

委員

水野市長の 3 つの「強く優しく輝く」の説明の時にちょっと気になったのだが、こういうまちにしたいという目線なので、産業を強くとか、障がい者の方に優しくとかっていう、結構思っていたより大きい括りだったなと思った。それはそれで勿論合っていると思うが、例えば優しい人が滑川市民に対しての、何か優しい人が増えたらいいなとか、例えば強い心を持った人が増えたらいいなみたいな感じで、あまり人ベースに聞こえなかった。マニフェストって選挙の時なので、そういう大きい括りで出していたと思うが、もっと人にフォーカスした感じの強くとか優しくとか輝くっていうのも考えておられるのかなと気になった。

水野市長

市民の方にもいろいろな方がおられるので、将来的には強い人も探していかなきゃいけないし、優しい人は滑川市にたくさんいると思うので、そういう方とも連携しながら、滑川を次世代に向けた形で皆さんと共に創っていきたいという思いは持っている。

委員

その辺を深掘りできたら、よりよくなるのかなと思って聞いていた。

委員

次年度に向けての提言になるかもしれないが、やはり「強く優しく輝く」というところは軸になってくるところだと思う。例えば、次年度この後分科会を作って深掘りしていくのであれば、今年度の会議の中に「強く優しく輝く」はなかったなので、その前段階の情報共有という形で、来年度に追加して、市として次年度に「強く優しく輝く」をつくっていきましょうっていう会議はあってもいいのかなと思った。

座長

資料 26 ページには今後の取り組みということで、先ほど副市長からも説明があったが、これに関してご提言・ご意見はないか。今後どのように進めていけばよいか、どのようにすればよいか。実際これまでも中에서도いろいろな話が入っているが、具体的にどうか。

委員

このプロジェクトは、市内の人たちで完結させる予定か。例えば、プロジェクトに分けて今後進めていくみたいなことも書いてあるが、地域とかブランディングの話だと、市民だけでやられるのはもちろんよいと思うが、やっぱり周りの市外の人声とか、事業者も巻き

込んでいった方がよりよいものができると思う。

柿沢副市長

今現在、そこまで決めていない。今いただいたご意見は確かにそうだとも思う。だから、実際にこの滑川市でいろいろとプロジェクトをやる時に、市内の方だけでやる訳ではなく、市外の方、あるいは県外の方も含めて一緒にプロジェクトに関わっていただきたいとは思っている。そういう意味で、今後の具体的なプロジェクトを考えるにあたって、そういう分野、それぞれの分野が得意な方に入っていただくということは一つの方法ではないかなというふうに思う。

委員

滑川の住民をパッと想像した時に、やっぱり暮らしている人が多いなっていう感覚があって、まちを創ってこういう人の割合というのはそこまで多くないのではないかなというイメージを持っている。そうなった時に、行政のトップダウンの方が早いのだが、それはやり方として違うなと思った時に、何か両者が歩みをちゃんと揃えながら行くってことに強く意識して進めていかないと、なりにくい地域性がありそうだ。なので、本当に小さく始めるっていうところとか、何か面白いねって言ってくれる共感者を増やすみたいなやり方等を自分自身もちょっと意識していきたいと思うし、それが、滑川のベッドタウンならではの特徴もありそうだなっていうところを感じている。

藤野特別アドバイザー

富山県のウェルビーイング、成長戦略会議をした時に、中間報告を出した後でタウンホールミーティングをかなりやった。もちろん、全員の富山県の人意見を取れる訳ではないし、各地によって温度差がある。結構たくさん来たところもあるし、若い人が来てどんどん意見を言ったところもあって、それはやっぱり時間を置いて効いてきているというところがある。

やっぱりそれを滑川もやった方がよいと思うが、そのやり方も別に県に従う必要はないと思うし、子どもを大切にすることであれば、例えば小学校や中学校の生徒さんと、それから保護者と一緒に何か議論するみたいなところがあってもよいのかなというところがあって、親子で話すみたいな機会もあっても、らしさが出るだろうし、そういうことがあったらおそらくそういうタウンホールミーティングがあって、親子でまちの未来を話したっていうところがあったら、富山の中でもテレビとかで取り上げてくれると思うし、新聞社も来るし、というところで、やはり賑やかさができるのかなというふうに思う。それを、複数回いろいろな場所でやってもよいのかなとも思う。その時にこのメンバーの人たちもニュートラルに、でも思いを持って話せる人たちがいるから、このメンバーの人たちも何名か、それぞれのところで分担して加わりながら、話をして、その会議の様子とか雰囲気と一緒に伝えていくみたいな感じができると思うのではないかなと思った。

座長

今のアドバイスも踏まえまして、何か他の委員から、ご提言・ご意見があればお願いしたいと思うが、いかがか。

委員

前に富山県の成長戦略会議の時に滑川で参加した時に、住民は多分5～6テーブルの島を

作って、その周りに行政の方が20人くらいずっと囲ってその様子を見ていたのだが、私はその様子を見られているのが凄く違和感があり嫌だった。対話するのは、その場の目的が住民の意見を吸い上げるために行政の方が見られていたのだと思うが、何か檻に入った気分、本当は成長戦略とかって官民連携してやるものだと思うのに、住民の声を吸い上げるっていう体裁の下に凄く動物園気分、それが嫌だったなっていう感情を未だに忘れずに持っているので、そういう検討会議とか、開かれる場合にも立場を超えて一緒に入ってしゃべってもらってという仕掛けをつくってもらえたら非常に嬉しい。行政の方もお母さんであったり、お父さんであったり、一市民の方もいっぱいいると思うので、そこはトップダウンで貴方も一市民なので、今日は立場もあるかもしれないけれども、是非話してねっていうスタンスで、市役所の方に入っただけなら非常にしゃべりやすいし、関係性が築きやすいなっていうところを感じている。

座長

話しやすい環境にして欲しいということであるので、よろしく願いたい。

委員

まちづくり共創会議みたいな形で、もう自由に好き勝手に意見を言ってもらって、それを拾ってもらおうというやり方もあるのだが、先程話が出た「すべらない街」をくっつけていきましょうよっていう、無理矢理くっつけるってとてもよいなと思っている。ある程度制限があった方が、発想が広がる場所があるので。私が知りたいのは、「5つの政策ごとにワーキンググループを設置し」とあるが、5つの施策の中でどれが一番重要なのか。もちろん、甲乙つけ難い部分があるのかもしれないが。

例えば、今の滑川にとってはブランディングが一番大事だ。教育が一番大事だとか。それがあって始めて3つ目ができる、4つ目ができるみたいな話になるのか。完全に同じレベル感で話さない方が逆に焦点を絞って話せるのではないかなって思ったので、それが取り組みの一つの進め方としての提案で、もう一つがやっぱり行政の取り組みなので、予算とセットでやった方が実は考えられるんじゃないかなと思っている。例えば、何か創業支援をするって言った時に富山県と同じような取り組みはできないだろう、滑川ならではのやり方で考えた時に、予算10万円、100万円、1,000万円によってもやれることが変わるので、予算は少なくともよい。少ないからこそ知恵を絞ってできることもあれば、ガッツと使えるから、使えるとしたら何を一番やりたいかみたいところで、頭の体操的な形で、実際の予算を取るかどうかはともかくとしても、そういう制限を加えてあげることで発想が広がるのではないかなと思う。今後の取り組みに向けての意見である。

座長

今後の取り組みについてご意見をいただいたが、他の委員の方で今後の取り組みについて、ご意見があればお聞かせ願いたいと思うが、いかがか。

委員

少子化対策や子育てには、今の若い方たちが何故結婚しないのかとか、子どもを作らないのかとか、そういったところも深く考える必要があるのではないかなと思う。なので、やっぱり若者の話を聞ける場とか、子育て世代の女性の意見を聞ける場とか、もっとそういった場所に子どもを連れてくるのも大変だと思うので、そういったところの体制を整えて意見を聞けるところを作るべきかなと思う。

委員

例えば、起業支援とか、みんなで集まろうとか、会議を開こうとか、いろいろ自治体とか事業者とかがやってくedasるが、何かどうも子どもがいる人たちが入りづらいっていう、アンコンシャス・バイアスではないが、何かこう見えない差別みたいなものがあるって、例えばそこに参加するまでのハードルが凄く高くて、子どもをどうするのとか、預けるのを全部任せちゃっていて、そもそもその土台に乗れない。なので、少子化を考えるにあたって、その当事者がその話をできるまでの場を整えられていないというか。なので、他のことでもそうだが、もし少子化のことをやられる、かつ、その当事者たちに話を聞くとか、集まる場をつくる時は、子育て世代の人たちの見えないハードルを下げる取り組みをされた上で開催されたら、本当は一番聞きたい層が集まってくるのではと思う。なので、先ほどおっしゃったとおり、小学校とか中学校で、親子でやるのもそうだが、例えば幼稚園とかもっと別の場所でもよいのだが、子どもが騒いでもいい場所っていう前提があると、凄く働く世代、共働きの世代にとってはいいんじゃないかなと思う。

座長

今後の取り組みの中に「市民の皆さんの意見をいろいろと取り入れて」とあるので、それをいかに取り入れるかということ。やはり今は少子化という問題があるので、先ほどもあったが、いかにして結婚をしてもらい、子どもを産んでもらうかっていうのも大事なことでと思うので、そういった場所を作るとか、大事なことはないかなと思う。そういう意見も踏まえて、何か他にアイデアやご提案があればお願いしたいが、いかがか。

委員

どうしてもその一般市民的な感じで言ってしまうと、まず最初の前提として、このまちづくり共創会議がどれだけ認知されているのか。別に認知されていなくてもいいが、こういうようなことが話し合われて、それを中間報告っていう形になっているが、どういう風にそれを発信していくのか。それに、市民がどうアクセスすると言うか、気づいてもらうのか。そこがもしかしたら一番難しいんじゃないか。だから逆に、「すべらない街」くらいの、惹きつけるものがあつた方が、もしかしたら市民の皆さんは入って来やすいのではないだろうか。惹きつけるには、やっぱりそういうキャッチコピー的なものが、市民に参加してもらうためには要るんじゃないか、それをどうやって発信するのかっていうのは、市の方にももっと考えてもらわないと、いつもこういう機会を与えてもらったからこそこうやって一生懸命考えたり、しゃべったりする訳で、市民の方も日頃考えたり何かいろいろ思ったことがあつても、それを毎日考えている訳ではない。やっぱり生活があつて、仕事があつての中で、いつもアンテナを張れないので、そう考えた時に、そこにどう内容を上げてあげられるかっていうのを考えないと、何かこの中だけの小さいことに終わってしまいかねないなと思った。

委員

本当に真面目な取り組みということで今後も考えていただくと思うが、この会議体のよいところは少しラフなお話もみんなでできるっていうところもあるし、あまり制限がないってところもある。逆に言うと、具現化できるような話も今までいくつかあつたと思うが、そういうのを少しずつやっていきたいだろうし。例えば、高校生だと、地域の都市伝説ではないけど、恋が実るだとか、魚津に行ったら恋人の丘があつて鍵をかけたらいいよとか、鐘を鳴らしたらいいよとかある。そんなようなものでもよいと思う。そんなことを一

つずつ対外発信をしていって、駄目ならやめればいいし、よいものはどんどん伸ばせばいいし、簡単にはやめる訳にはいかないのだろうが、今 YouTube 等でも空き家の情報を滑川市も発信していこうと、ふざけたではなく、砕けた意味で、凄く受け取り手が来やすいようなことも出てきたと思う。そのようなのは、高校生からアイデアをいただいたらよいのではないかなと思うし、先ほど「すべらない」というワードだけでこれだけ話ができるというのも、議会でこんな話はできないと思う。だからこれはやはり悪いことじゃなくて、凄くよいことだろうし、せっかく、皆さんいろいろな生活があっていろいろな仕事されている方がこれだけ集まっているということなので、初年度については纏めというよりも、一応これだけの事実ができたということで先ほどからあるように、ワーキンググループに分かれるのか、一つのことを掘り下げるのかっていうようなことがあって、1つでも2つでも今度は行動に移せるものにしていくとよいのではないかなと思った。

座長

もう時間もちょっとなくなったのだが、もし他に何かあれば。無いようであれば、藤野アドバイザー何か最後をお願いしたいのだが、いかがか。

藤野特別アドバイザー

最初はちょっと硬かったのが、段々積極的に発言できて、盛り上がってきて、やっぱりこの会はいいなと思った。

座長

今回の会議はこれでということですが、先程言われたとおり、会議ではしゃべれない、本当にざっくばらんにいろいろなことをしゃべることもあると思うが、なかなか、この場で意見が出てないということもあると思う。皆さんのお手元に、共創会議中間報告（たたき台）への意見書があると思う。この紙にも書いてある通り、今までの会議の中で、言い足りなかったこと、また思いついたことがあれば、これに記入をして、2月28日までに提出していただきたいと思っているので、よろしくお願いしたい。間違いなく委員全員の方に書いていただきたいので、必ずこれを提出していただきたい。今まであった思いを書いていただければ大丈夫なので、よろしくお願いしたい。

了